

1. 授業の概要(ねらい)

経済学の理論は大きく分けると、ミクロ経済学とマクロ経済学に分かれる。ミクロ経済学が、一人一人の消費者や労働者、それから一つ一つの企業などに注目して、経済を営む最小単位からアプローチするのに対し、マクロ経済学は、国家単位で集計して巨視的な観点から経済にアプローチするものである。

マクロ経済学を学ぶことは何の役に立つのだろうか。

それは、経済が国家単位の集団として営まれるとき、そこに現れる法則性が、わたしたち個人個人の生活にどんな影響を持つかわかる、という点で役にたつのである。このような知識は、単に「単位が取れて卒業できた」ということ以上のメリットを諸君にもたらすだろう。それはなぜか。例えば、社会人になると、多少の蓄えができる。そのおおよそは銀行預金にするが、一部は株や投資信託などで増やそうと考える。このとき、物価や利率の動向を予測するのは大切で、それは景気の先行きと密接な関係を持っている。また、家庭を持って子供ができると、いずれ住宅を購入する。現金で買える人は少ないので、たいていはローンを組むだろう。このとき、利率の動向を予見したり、自分の職業の将来を見据えるのは、大切な態度である。このような「経済の見通し」を作るには、マクロ経済学の知識はなくてはならないものである。

前期に、GDP、消費、投資、利率、経済成長率、GDPデフレーター、インフレ率、実質成長率、実質賃金指数、実質利率、貨幣供給量などのマクロ経済指標を講義したのを受けて、後期には、もっと突っ込んだ分析を行う。前期が主に、「経済の静止画像」的な講義だったのに対し、後期には「動画」のほうを講義する。専門的にいうと「経済成長理論」という分野である。

一国の経済が成長するのは、どういうメカニズムだろうか。なぜ、世界には豊かな国と貧しい国があるのだろうか。急激な経済の発展はどのように達成されるのだろうか。日本は、高度成長が止まり、今はゼロ成長の時代となっているが、これはどうしてなのだろうか。これらの疑問に答えるのが、経済成長理論である。ソローモデルを基本にして、経済成長をシミュレートし、GDP・消費・投資・投資率・利率・物価・最適消費(黄金律)の決定方法を講義する。前期よりはいくぶん数学的になるが、使うのは「算数」だけなので恐らくなくてもいい。

2. 授業の到達目標

資本量、貯蓄率、減耗率を変数とする経済成長理論(ソローモデル)を正しく理解し、それを現実の国家経済へ応用できることが到達目標。

3. 成績評価の方法および基準

毎回の小テスト(20%)と中間テスト(30%)と期末テスト(50%)の合計によって評価する。カードリーダーのクリック回数、小テスト・中間テストの受験回数が不足の場合、期末テストの受験資格を与えないので注意すること。就活は欠席の理由として認めない。

4. 教科書・参考文献

5. 準備学修の内容

LMSに毎週、復習のための宿題をアップロードするので、次の講義までに60分程度で解答しておくこと。

6. その他履修上の注意事項

講義は、教科書を使わず、スライド画面で行う。スライド画面はLMS上にアップロードする。

毎回、小テストを実施する。小テスト受験に対し加点、未受験に対しペナルティを与える仕組みなので、必ず毎回受験すること。カードリーダーのクリック回数、小テスト・中間テストの受験回数が期末テストの受験資格に関わるので、必ず初回の講義を受講し、単位取得の要件を確認の上で履修登録すること。就活には配慮しないので、就活で欠席が多くなる学生は履修しないこと。

7. 授業内容

- 【第1回】 講義ガイダンス+マクロ経済学の概要+経済成長理論、日本の経済成長、収斂性+小テスト
- 【第2回】 経済成長の要因、経済成長モデルの構造+小テスト
- 【第3回】 経済成長モデル1と定常均衡+小テスト
- 【第4回】 定常均衡と動学的安定性+小テスト
- 【第5回】 凹の生産関数、限界生産性逓減の法則+小テスト
- 【第6回】 凹の生産関数による経済成長モデル2、動学的安定性+小テスト
- 【第7回】 経済成長モデル2とそのシミュレーション、収斂原理+小テスト
- 【第8回】 (オンライン)宿題の解答+中間テスト
- 【第9回】 定常均衡のグラフ上の作図、貯蓄率の変化による均衡の推移+小テスト
- 【第10回】 投資の需要・供給による貯蓄率の決定+小テスト
- 【第11回】 事業収入・貸与収入、実質貨幣需要による物価の決定+小テスト
- 【第12回】 最適消費、最適投資、黄金律の決定+小テスト
- 【第13回】 黄金律での各指標の決定、黄金律の作図+小テスト
- 【第14回】 まとめプリント演習
- 【第15回】 経済成長理論のまとめ+期末テスト